

## 報道関係各位

2009年12月25日

特定非営利活動法人 日本医療政策機構

市民医療協議会 がん政策情報センター

センター長 埴岡 健一

### **患者・市民による「がん対策」を民間シンクタンクが支援**

**(7 都道府県 8 プロジェクトに最大 1100 万円)**

**「地域発：がん対策市民協働プログラム」**

～3年間で3万人の命を助けよう～

#### 「地域発：がん対策市民協働プログラム」のポイント

- 日本医療政策機構<sup>1</sup>市民医療協議会 がん政策情報センター<sup>2</sup>は、新しく4プロジェクトを追加で採択し、各地域のNPOなどとがん対策協働事業を実施する。
- 2010年1月1日から始動する新たなプロジェクトには2年間で1件最大800万円、2009年8月から始動しているプロジェクトには、3年間で1件最大1100万円を支援。
- 既存プロジェクトには、好事例が生まれて、地域間の共有も始まる。

#### **がん政策情報センターは、新しく4プロジェクトを追加で採択し、各地域のNPOなどとがん対策協働事業を実施する。**

厳正なる審査の結果、24件の応募の中から4件を採択し、新しく追加。今回の採択では新たな試みを2点行っている。一点目は、愛知県から応募のあった2プロジェクトについて相乗効果が期待できるため、統合して1プロジェクトとして採択した。二点目は、新規分野として全国対象の就労支援のプロジェクトを採択。この結果、既存の継続プロジェクトでは、北海道、宮城県、大阪府、高知県、新規採択のプロジェクトでは、静岡県、愛知県、沖縄県、及び全国の合計8プロジェクトが決定した。各プロジェクトは地域の関係者や協力者とチームを結成し、地元密着型でプロジェクトを進める（各プロジェクトの概要は後述）。

#### **既存プロジェクトには、好事例が生まれて、地域間の共有も始まる**

プロジェクトの経過を、宮城県の事例を一例として報告。宮城県では患者・市民、行政、医療機関、メディアなどが一体となって、がん対策を推進しようという空気が急速に醸成されてきている。県のアクションプランに、当プロジェクトが盛り込まれたことは、まさに好事例といえる。そして、2010年3月22日には高知で、4月10日には東京でプロジェクトの合同発表会が企画されており、お互いの好事例の共有も始まっている。

「地域発：がん対策市民協働プログラム」は、現在進行中の国のがん対策推進基本計画と都道府県のがん対策推進計画の趣旨に合わせ、がんによる死亡を3年間で3万人減らすことを目的としている。また、各地の優れた取り組みに対して、がん政策情報センターが、資金面で支援を行うだけでなく、事務や広報の補助などの協働により、地域内での横断的な連携の発展を促進する。各地域のプロジェクトがモデル事業となり、好事例として全国で共有され広がることを目指す。

当プログラム選考委員長の信友浩一さんは、「2年目も創意工夫にあふれ、意義があると思われる応募が多数含まれていた。そのひとつが就労支援プロジェクトであり、予防、早期発見、治療の均てん化といった従来の切り口とは別の重要テーマであるとして、評価された。今後は、1、2年目に選考された合計16のプロジェクト同士が情報交換をし、刺激を与えあい、切磋琢磨することにより、お互いを高め、さらなる発展をしていってほしい」と述べている。

がん政策情報センター長の埴岡健一は、「地域発：がん対策市民協働プログラムの特色は、患者関係者がリーダーとなり、県庁や地域のがん拠点病院など、他のステークホルダーも巻き込んで実施していることだ。1年目は助走期間であったが、地域の行政にも認知され、マスコミ報道もあるなど、成果が出はじめている。2年目以降は、本格的な活動の段階に進んでいくことになり、全国に普及するモデルが形成されることを期待する」と、述べており、今後の各地への波及の状況が注目される。

(別紙の各プロジェクト概要もご参照ください)

#### 1 日本医療政策機構とは

特定非営利活動法人日本医療政策機構（東京・千代田区）は、「市民主体の医療政策を実現すべく、中立的なシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供すること」をミッションとする、超党派・民間・非営利の医療政策シンクタンクです。

<http://www.healthpolicy-institute.org/>

#### 2 市民医療協議会 がん政策情報センターとは

市民医療協議会は、日本医療政策機構において、市民・患者主体の医療政策の実現を推進している部門です。がん政策情報センターは、市民医療協議会内のがん対策担当チームです。

<http://www.kanjakai.org/>

<http://ganseisaku.net/>

#### 「地域発：がん対策市民協働プログラム」に関するお問い合わせ先

（個別プロジェクトに対する取材もお待ちしております。是非、貴メディアにてご紹介いただければ幸いに存じます。ご希望の方は、以下までご連絡をください）

日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター

Tel: 03-5614-7796 Fax: 03-5614-7795

担当：内田 E-mail: [chiiki@healthpolicy-institute.org](mailto:chiiki@healthpolicy-institute.org)

#### 取材・報道に関するお問い合わせ先

日本医療政策機構 市民医療協議会

Tel: 03-5614-7796 Fax: 03-5614-7795

広報担当：湯澤 E-mail: [info@ganseisaku.net](mailto:info@ganseisaku.net)

#### 年末年始休業期間中のお問合わせ先

期間：2009年12月26日～2010年1月5日

連絡先 Tel: 070-6631-6993

担当：内田 E-mail: [chiiki@healthpolicy-institute.org](mailto:chiiki@healthpolicy-institute.org)

## 地域発：がん対策市民協働プログラム 2010年実施の8プロジェクトの概要

2010年実施予定の8プロジェクトの概要を紹介。10年は、6件の本プロジェクト（09年からの継続4件、新規2件）のほかに、2件の「ゆりかごプロジェクト」（新規）を実施。「ゆりかごプロジェクト」とは、本プロジェクトに採択されるには至らなかったものの、本プロジェクトへの発展の可能性があるプロジェクトで、成果によっては来年以降、本プロジェクトの対象になることがある。本プロジェクトは年間400万円、「ゆりかごプロジェクト」は年間100万円の資金的支援を行う。

### 1（1）本プロジェクト（2009年からの継続）4件 （北海道、宮城県、大阪府、高知県）

#### 北海道

##### プロジェクト名

「がん予防検定を用いた地域ぐるみ・がん予防プロジェクト」

##### プロジェクトの概要

「がん予防検定」を作成し、モデル市町村で実施する。モデル市町村の地域住民にワークショップやアンケート調査を行う。

##### プロジェクトの目的

「がん予防検定」によって、がん予防に関する知識を向上させ、喫煙率の低下（男性10%減、女性5%減）、がん検診受診率の倍増を目指す。

##### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 北見 NPO サポートセンター、北海道情報大学医療情報学科、日本赤十字北海道看護大学、札幌市北光記念病院

##### 代表者

谷井 貞夫（たにい さだお）さん〔特定非営利活動法人 北見 NPO サポートセンター 理事長〕

##### 2009年活動報告

「がん予防検定」仮試験を、北海道網走郡津別町（11月28日）と北見市（11月29日）で実施し、計50人ほどが参加。双方向・参加型ワークショップで意識が高まると好評。

詳細：[http://ganseisaku.net/coproduction/index\\_project\\_hokkaido.html](http://ganseisaku.net/coproduction/index_project_hokkaido.html)

メディア掲載：12月11日 NHK「元気列島」他

##### プロジェクトのポイント

がん予防検定は双方向・参加型のワークショップが特長であり、今後、受講者への効用を追いつく、検定方法の確立、北海道内各地への展開拡大が期待される。



## 宮城県

### プロジェクト名

「患者発・宮城版 退院時サポートプロジェクト」

### プロジェクトの概要

初回退院時の患者さん向けに「退院サポートキット」（支援団体の連絡先や療養中の注意点など記載した冊子）を作成、配布し、病院には「退院支援システム」（先進事例を基にした退院支援の指針を提供）導入の支援をする。

### プロジェクトの目的

がん治療においては入院期間が短くなる一方で、退院者・通院者のサポートが足りない医療機関が多い。そのため、患者さんや家族の不安に応えるために、退院者・通院者のサポート体制を構築し、絶望せずに療養できる体制を目指す。

### 主な実施/参加団体

婦人科がん患者会「カトレアの森」、特定非営利活動法人 在宅緩和ケア支援センター虹、石巻ホッとサロン、石巻赤十字病院、大崎市民病院、宮城県内のがん診療連携拠点病院、東北大学大学院医学系研究科、宮城県保健福祉部がん対策班

### 代表者

郷内 淳子（ごうない じゅんこ）さん〔患者発・宮城版退院時サポートプロジェクト 代表〕

### 2009年活動報告

「宮城県がん対策推進計画を推進するためのアクションプラン」に採択され、六位一体となって取り組む方向性が明確にされた。「退院サポートキット試作版」を試験的に配布し、大崎市民病院では「退院支援システム」導入研修を実施した。

詳細：[http://ganseisaku.net/coproduction/index\\_project\\_miyagi.html](http://ganseisaku.net/coproduction/index_project_miyagi.html)

メディア掲載：9月28日 Japan Medicine 他

### プロジェクトのポイント

「退院サポートキット」配布後のネットワークを、どのように活かすことができるかが重要であり、プロジェクトの普及に向けた、今後の計画と展開に注目。

## 大阪府

### プロジェクト名

「『府民へ届け！大阪ならではのがん情報』～効果的ながん対策の実現と患者・家族・府民の支援をめざして～」

### プロジェクトの概要

府内のがん情報を統合した情報システムの構築にあたり、府民目線で内容や提供方法を提案。医療機関別の治療内容・患者サービスの現況や、府内の地域別のがんの罹患率、死亡率、治療成績、がん検診受診率、喫煙率などを公開していく「がん情報サイト」を、府民やがん患者・家族にとって「見やすい」「わかりやすい」「活用しやすい」サイトに育てていく。

### プロジェクトの目的

各所に点在し、専門家以外には理解困難であった情報の整備と提供システムの構築にあたり、府民目線のアイデアを付加し、すべてのがん患者が納得できるがん医療・ケアの実現、がん死亡者の減少をめざす。

### 主な実施/参加団体

大阪がん医療の向上をめざす会、大阪府立成人病センター

### 代表者

濱本 満紀（はまもと まき）さん〔大阪がん医療の向上をめざす会 渉外担当〕

### 2009年活動報告

一般の参加者向けに「がん情報サイト研修会」を12月5日に開催。大阪府立成人病センターが中心となって構築している「よくわかる！大阪のがん診療NOW」（検索サイト）を試用してもらうことで、府民の要望を聴取した。

詳細：[http://ganseisaku.net/coproduction/index\\_project\\_osaka.html](http://ganseisaku.net/coproduction/index_project_osaka.html)

メディア掲載：12月3日、6日 読売新聞他

### プロジェクトのポイント

患者さんの視点にそった検索システム（デザイン、ロジック）が、どこまで実現できるかに注目される。



## 高知県

### プロジェクト名

「高知発：がん患者支援プロジェクト」

### プロジェクトの概要

講習会を開催して「心のケア支援相談員」「がん情報ナビゲーター」「在宅介護ボランティア」を養成し、がん患者のニーズに答える。医療提供者や介護関係者とのネットワークを作り、在宅医療や緩和ケアの充実を図る。

### プロジェクトの目的

地域では医療情報が不足しており、安心して納得できる医療が受けられる体制が整っていない。そのため、情報提供の仕組みを整え、患者さんや家族の支援者を育成し、コミュニティに根付いたネットワークを作り、患者さんや家族が安心して暮らせる医療体制を構築する。

### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 高知がん患者会一喜会、いの町立国民健康保険仁淀病院、医療法人 久会 函南病院、医療法人 新松田会 ホームヘルパーステーションあたご、社団法人 高知県臨床検査技師会、高知県放射線技師会、あおぞら診療所、臨床スピリチュアルケア協会、R K C 高知放送

### 代表者

安岡 佑莉子（やすおか ゆりこ）さん 【特定非営利活動法人 高知がん患者会一喜会 理事長】

### 2009年活動報告

「心のケア支援相談員」養成講座を、医療提供者向けと一般向けに分けて、計6回開催（全18回予定）し、医療提供者12人、一般9人が参加。「がん情報ナビゲーター」養成講座を全6回開催し、10人が参加。

詳細：[http://ganseisaku.net/coproduction/index\\_project\\_kochi.html](http://ganseisaku.net/coproduction/index_project_kochi.html)

メディア掲載：8月1日 高知新聞他

### プロジェクトのポイント

がん患者を支援する人材養成のカリキュラムを作成できるかが重要。カリキュラムができ、地域で支え合うコミュニティ形成のモデルになることを期待。

「コミュニティにおけるがん患者支援プロジェクト」より、プロジェクト名を変更（8月1日）

## 1(2) 本プロジェクト(新規)2件 (愛知県、全国)

### 愛知県

#### プロジェクト名

「愛知発：ピアサポートプロジェクト」(2パートがコラボレーションして実施)

#### プロジェクトの概要

がん患者のニーズにあった支援体制の構築を目標に、ピアサポート活動として、「心のセルフケア支援」と「がん診断時からの情報支援」を実践する。2つの支援の仕組みは、車の両輪であり、同時展開することで、より患者さんのニーズにあった支援の仕組みが構築される。

#### プロジェクトの目的

患者自身が自立し、医療関係者と共に医療に参加できるように支援する。地域で連携することにより、本プロジェクトのシステムを愛知県、そして全国へ普及させる。

#### パート名

「がん患者支援プログラムの普及と展開」

#### パート名

「がん診断時からのピアサポート・モデル事業」

#### 概要

がん患者支援に関わっている人を対象に、セルフケアに関するスキルを養成するワークショップを開催する。さらに、集中的な学習として、合宿型研修会を開催し、スキルアップトレーニングを実施する。

#### 概要

それぞれのがん種別で、患者さんのがん闘病を診断時からサポートできる「がん種別ピアサポーター」を養成し、がん診療拠点病院やがんサロンで、診断時からがん患者をサポートし、治療成果やQOL向上を目指す。

#### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 ピアサポートわかば会、財団法人 いのちの森文化財団

#### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 ミーネット、愛知県内のがん診療連携拠点病院、名古屋市立大学病院、名古屋市健康福祉局

#### 代表者

寺田 佐代子(てらだ さよこ)さん〔特定非営利活動法人 ピアサポートわかば会 理事長〕

#### 代表者

花井 美紀(はない みき)さん〔特定非営利活動法人 ミーネット 理事長〕

#### プロジェクトのポイント

患者会リーダーやがん患者支援に関わる多くの方が、支援方法としてのサポートプログラムを知り、スキルアップすることで、がん支援そのものがより充実することを目指す。

#### プロジェクトのポイント

がん治療体験者が、がん種別にサポートスキルを身につけ、新たにかんと診断された人たちを診断時からサポートすることによって、治療成果とQOLの向上を図る。

## 全国

### プロジェクト名

「働き世代のがん患者・体験者に対する、就労・雇用支援プロジェクト」

### プロジェクトの概要

全国主要都市（3～4カ所）で「働き世代のがんセミナー」キャラバンを開催する。がんに関する正しい知識普及に向けたサバイバートーキングセミナーを行い、がんに関する誤解や偏見を無くし、支援企業とエントリー患者を募る。がん患者に対し、就労サポートプログラムを毎月開催し、働くことを支援する。

### プロジェクトの目的

就労世代におけるがん体験者が、偏見なく仕事を継続できるよう、地域社会、患者・家族、企業、行政に対して、様々なプログラムを実践し、未来の日本のがん医療、ならびに体験者のQOL向上を目指す。

### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 HOPE プロジェクト、特定非営利活動法人 キャンサーネットジャパン

### 代表者

櫻井 なおみ（さくらい なおみ）さん〔特定非営利活動法人 HOPE プロジェクト 理事長〕

### プロジェクトのポイント

がん体験者の就労・雇用を考え、支援する日本で最初で唯一の活動。「がん」になっても、就労機会を失うことがない思いやりのある社会の実現を目指す。



## 2. ゆりかごプロジェクト（新規）2件 （静岡県、沖縄県）

### 静岡県

#### プロジェクト名

「子育て世代の女性特有がん 検診受診率向上プロジェクト」

#### プロジェクトの概要

子育て世代（20～40代）の女性に、女性特有がんの検診を受けることの必要性を啓発する。「子育て支援乳がん検診（託児つきの乳がん検診）」の存在を、子育て世代の女性に広く周知させ、「子育て支援乳がん検診」を定着化させる。

#### プロジェクトの目的

「子どもの預け先がない」「情報がない」など様々なハードルにより、検診を受けられないまま放置している女性が増えている。そこで、乳がん検診などの定期的な受診の必要性を子育て中の女性に訴え、「子育て支援乳がん検診（託児付き乳がん検診）」の試みや正しい検査の情報提供（例えばマンモグラフィーへの恐怖心を減らす情報提供）を行う。

#### 主な実施/参加団体

特定非営利活動法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ、一般社団法人 ピア、特定非営利活動法人 がん情報局、医療法人圭友会 渡辺医院（浜松オンコロジーセンター）

#### 代表者

原田 博子（はらだ ひろこ）さん〔特定非営利活動法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ〕

#### プロジェクトのポイント

子育てを支援するNPOと、医療提供者が中心となって、子育て世代のがん啓発を行う新しい試みである。子育てチャネルとの連携により、さらに大きな効果が期待される。



## 沖縄県

### プロジェクト名

「『がんかわら版』出前屋」

### プロジェクトの概要

沖縄県内の島部・離島に、がん情報の「かわら版」を配布しながら、がん情報を発信できるネットワークを広げる。

### プロジェクトの目的

沖縄県では、情報開示の手段としてウェブサイト依存しているため、特に島部・離島では、がんに関する情報が伝わっていないのが現状である。そのため、島部・離島の方々に、「かわら版」で、がん予防・対策の情報を届けることで、啓発を促し、ネットワークを形成する。

### 主な実施/参加団体

沖縄がん患者ゆんたく会、沖縄県がん診療連携協議会、琉球大学附属病院、

### 代表者

三木 雅貴（みき まさき）さん〔沖縄がん患者ゆんたく会 幹事〕

### プロジェクトのポイント

沖縄県ならではの課題であり、離島・へき地対策は、普遍的なテーマである。人の手で「かわら版」を届け、均てん化をめざす。

\* プロジェクト名などは、開始した後、変更になることもありえます。



### 選考委員

- 天野 慎介 (日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター )  
隈本 邦彦 (江戸川大学メディアコミュニケーション学部マス・コミュニケーション学科 教授)  
祖父江 友孝 (国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部 部長)  
信友 浩一 (九州大学医学研究基礎医学部門医療システム学教室 教授)  
萩原 なつ子 (立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授)  
埴岡 健一 (日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター センター長)  
前田 光哉 (厚生労働省 健康局 総務課 がん対策推進室 前室長)  
宮内 泰介 (北海道大学大学院文学研究科地域システム科学講座 教授)

( : 委員長、五十音順、敬称略)

本プログラムは、米国ファイザー財団およびファイザー株式会社の社会貢献活動である Global Health Partnerships (GHP、世界健康協働プログラム) の資金援助 (寄付) を受けて実施しています。なお、個別のプロジェクトの内容等に関して GHP が関与することは一切ありません。

### 事務局

- 内田 亮 (日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター 地域担当)  
沢口 絵美子 (日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター 地域担当)  
乗竹 亮治 (日本医療政策機構 市民医療協議会 企画担当)  
山口 綾香 (日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター 地域担当)

(五十音順)

### 本件に関するお問い合わせ先

(個別プロジェクトに対する取材もお待ちしております。是非、貴メディアにてご紹介いただければ幸いに存じます。ご希望の方は、以下までご連絡をください)

日本医療政策機構 市民医療協議会 がん政策情報センター

広報担当：湯澤

Tel: 03-5614-7796

Fax: 03-5614-7795

E-mail: info@ganseisaku.net

### 年末年始休業期間中のお問合わせ先

期間：2009 年 12 月 26 日～2010 年 1 月 5 日連絡先

Tel: 070-6631-6993 担当：内田

E-mail: chiiki@healthpolicy-institute.org